

令和4年第2回竹原市議会定例会議事日程 第4号

令和4年6月22日(水) 午前10時開議

会議に付した事件

日程第 1 一般質問

(1) 今田 佳男 議員

日程第 2 議案第36号 令和4年度竹原市一般会計補正予算(第3号)

令和4年6月22日開議

(令和4年6月22日)

議席順	氏 名	出 欠
1	金 森 保 尚	出 席
2	下 垣 内 和 春	出 席
3	今 田 佳 男	出 席
4	竹 橋 和 彦	出 席
5	山 元 経 穂	出 席
6	堀 越 賢 二	出 席
7	川 本 円	出 席
8	井 上 美 津 子	出 席
9	大 川 弘 雄	出 席
10	道 法 知 江	出 席
11	宮 原 忠 行	出 席
12	吉 田 基	出 席
13	宇 野 武 則	出 席
14	松 本 進	出 席

職務のため議場に参加した者は、下記のとおりである

議会事務局長 笹原章弘

議会事務局係長 矢口尚士

説明のため議場に参加した者は、下記のとおりである

職 名	氏 名	出 欠
市 長	今 榮 敏 彦	出 席
副 市 長	新 谷 昭 夫	出 席
教 育 長	高 田 英 弘	出 席
総 務 企 画 部 長	平 田 康 宏	出 席
観 光 ま ち づ くり 担 当 部 長	國 川 昭 治	出 席
市 民 福 祉 部 長	塚 原 一 俊	出 席
建 設 部 長	梶 村 隆 穂	出 席
教 育 委 員 会 教 育 次 長	沖 本 太	出 席
公 営 企 業 部 長	梶 村 隆 穂	出 席

午前10時00分 開議

議長（大川弘雄君） おはようございます。

ただいまの出席議員は14名であります。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

お手元に議事日程第4号を配付いたしております。この日程のとおり会議を進めます。

日程第1

議長（大川弘雄君） 日程第1，昨日に続き一般質問を行います。

質問順位7番，今田佳男議員の登壇を許します。

3番（今田佳男君） おはようございます。快政会の今田です。令和4年第2回竹原市議会定例会一般質問をさせていただきます。

今回は、観光、イベント開催についてと関係人口の増加対策について、2点について質問をさせていただきます。

1，観光，イベント開催について。

「新型コロナの影響により観光客の減少続く」という4月26日の記者発表資料があります。観光客数減少の原因を、緊急事態宣言の発令やまん延防止等重点措置の適用などによるイベントの中止や観光施設の休館，飲食店の休業が相次いだことと分析しています。

他市町では徐々にイベントが開催されていますが、竹原市内ではほとんどのイベントが中止となってきました。先日、広島市ではとうかさんが、忠海ではゆかた祭りが開催されました。にぎわいを取り戻すためにイベント開催を希望する声も増えていると感じています。開催する際は、「広島県におけるイベントの開催条件について」に決められている感染防止対策を講じなければいけません。今後市内のイベント開催についてはどのように対応されるのでしょうか、お聞かせください。

呉市では、コロナ禍の2年間で市内のイベントの9割程度が中止になったと推計して、商店街等が実施する、にぎわいを取り戻すための集客イベント等に対し経費を助成しています。竹原市でも同様な事業を実施することができないでしょうか。

政府は、入国者数上限を引き上げるなどとして、外国人観光客の受入れ再開に向けて動き出しています。竹原市の観光交流人口拡大推進事業委託業務仕様書では、委託業務の目的を「ファミツアーや在日外国人へのテストマーケティングを実施した上で、外国人向け旅行商品の造成販売、及び海外メディアを活用した情報発信を行い」として、インバウン

ドを重視した内容となっています。国の政策に沿った事業を展開することは必要ですが、同時に県内、中国地方など、近隣地域へもっと積極的に情報発信して、リピーターの増加を図ることも経済効果が大きいのではないのでしょうか。

新潟市は積極的に教育旅行を誘致しています。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から教育旅行を近隣で実施する学校が増加しており、教育旅行にレジャー性よりも教育的価値を求める学校も増えています。月刊雑誌「教育旅行」2021年8月号は、戦争遺跡で考える「戦争と平和」を特集していますが、「毒ガスの島」・「うさぎの島」で戦争と平和を学ぶとして竹原市も取り上げられています。修学旅行で、竹細工の体験を目的に竹原を訪れる小学校もあったと聞いています。地域資源を融合し、独自性のある企画を提供して、竹原市も教育旅行の誘致を推進することが可能ではないかと思います。お考えをお聞かせください。

道の駅の駐車場について質問します。

観光バスが複数台駐車するなどして満車の場合には、国道の交差点を右折した自動車が列となり非常に危険です。現在の道の駅の駐車場を改善して、駐車可能な台数を増やすことを検討すべきではないのでしょうか。

2番目に、関係人口の増加対策について。

関係人口の増加を目的として、移住人口拡大推進事業、お試し暮らし宿泊助成事業、関係人口及び移住・定住人口創出事業、移住就業支援事業などが今年度予算化されています。

先日、おてつたびでブドウ栽培の体験に来られた方々に会いました。農作業に従事された、出身地も年齢も異なる参加者3人が貴重な体験と言われ、今後竹原のファンになっていただけるに違いないと感じました。市内の農業の担い手不足は深刻であり、継続すべき事業であると思います。今後の取組をお聞かせください。

ゆかた祭りでは、竹アート展示、竹工房の実演がありました。参加した竹細工の青年は、最近メディアで取り上げられ、広島市内の百貨店で展示や実演の相談を受けるなど活躍しています。彼が竹原に移住して5年が経過し、彼の後輩も2年前に移住してきました。彼らが竹工芸を学んだ京都伝統工芸大学校と連携して、竹原の竹細工をより盛んにするお考えはないのでしょうか。

以上で壇上での質問を終わります。

議長（大川弘雄君） 順次答弁願います。

市長。

市長（今榮敏彦君） 今田議員の質問にお答えいたします。

1点目の観光、イベント開催についての御質問でございます。

イベントの開催につきましては、新型コロナウイルス感染症の感染防止の観点から中止を余儀なくされてまいりましたが、こうした中におきましても、関係者と連携し、竹灯りイベントの開催やハートの風車を町並み保存地区に設置するなど、次年度以降につながる取組を実施してきたところであります。

現在、他市町においては徐々にイベントが開催されていることから、今後市内で予定されている各種イベントにつきましては、関係者と連携を図りながら、広島県におけるイベントの開催条件等を踏まえた適切な感染防止対策を講じることを前提に、開催に向けた検討を進めてまいりたいと考えております。また、商店街等が主体となって実施する集客イベント等に対する助成につきましては、観光客及び関係人口の増加や地域のにぎわいを取り戻す観点から、他市町の事例を参考に研究してまいります。

次に、観光プロモーションにつきましては、地方創生推進交付金を活用し、平成30年度から令和2年度まで、国内及び近隣県向けのプロモーションに取り組んできたところであります。今年度、観光振興計画を策定いたしますが、アンケート調査等により観光客のニーズ等を分析し、より効果的な施策の検討を行うこととしており、アフターコロナを見据え、広島県観光連盟や近隣市町、市内観光関連事業者とも連携しながら、近隣県をはじめとする国内への情報発信を行ってまいります。

教育旅行の誘致につきましては、これまで広島県観光連盟と連携して、関東・関西方面などの高等学校や旅行会社などに対し、本市の大久野島をはじめ、県内の平和を学ぶことができる施設への誘致に向け、営業活動を行ってきたところであります。今後におきましても、関係者と連携しながら、近隣県からの誘致も含め、教育旅行の誘致に向けた営業活動等を行ってまいりたいと考えております。

次に、道の駅たけはらの駐車場につきましては、道の駅利用者のみならず、長時間にわたり駐車している観光客も多く見られ満車となる傾向があるため、観光客に対しましては、新町観光駐車場や臨時駐車場の利用を促しているところであります。引き続き、道の駅駐車場の改善及び対策について、設置者である国土交通省と協議してまいります。

次に、2点目の関係人口の増加対策についての御質問でございます。

全国の多くの自治体同様、本市においても人口減少、少子高齢化が進行し、地域づくり

の担い手不足や地域活力の低下などが大きな課題となっており、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現するためには、地域と多様に関わる関係人口や移住・定住人口の増加を図り、新たな担い手の確保につなげていくことが重要であると考えております。

このため、本市では、竹原市を好きで応援していただける方々で組織する、たけはらファンクラブを創設し、地域の魅力やイベント情報など、本市にまつわる様々な情報を発信するとともに、地域と関わるきっかけづくりを行っております。また、移住に関心がある方や本市に関わりを持つ方と先輩移住者や地域住民とのつながりをつくる、「関係人口及び移住・定住人口創出事業」にも取り組んでおり、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインセミナーのみの実施となりましたが、今年度は、地域づくりを実践されている方をゲストに招いたセミナーの実施と併せて、地域を知り、体験していただく現地ツアーを計画しているところであります。加えて、実際に地域と関わる方を支援する取組として、昨年3月に締結した、本市、三原市、尾道市、JR西日本の4者が相互に連携協力し、地域活性化を図るせとうちファンづくり協定に基づき、観光だけでなく、地域と関わりを持つことを目的に、本市を訪れた際に、宿泊費用の一部を補助するお試し暮らし宿泊助成事業や鉄道移動費用のポイント還元などを行っております。

また、関係人口によって地域課題の解決を図る取組として、地域のお手伝いをしたい方と繁忙期に人手が欲しい事業者とのマッチングを行う民間事業者おてつたびを活用し、繁忙期、農繁期の人手不足の解消をテーマに、地元農家とのマッチングを行いました。今回の取組は、本市と全く関わりのない方が地域に関心を持つことで、たけはらのファンを創出し、繰り返し訪れたい地域づくりを地域と共に進めていくものであり、取組の成果に期待しているところであります。

今後とも、このような取組を積み重ね、地域住民と継続的な関わりを持つことで、地域愛あふれるたけはらファンなど関係人口の創出・拡大を図るとともに、関係人口は、将来の移住・定住人口となり得る人材でもあることから、移住・定住施策と一体的に取り組んでまいります。

次に、竹工芸の振興についてであります。

京都伝統工芸大学校を卒業した青年が本市に移住し、ゆかた祭りでの竹アート展示、竹工房の実演において多くの観客を魅了するとともに、メディアでも取り上げられるなど、これまでも市の特産品である竹細工の魅力発信や市の認知度向上に貢献いただいているところであります。この青年の移住をきっかけとして同校の卒業生が3人移住され、竹工

芸を学ばれております。今後も、こうした移住者の増加と竹工芸の振興を図るため、竹工芸振興協会や関係者と協議しながら、具体的な取組について検討してまいります。

以上、答弁といたします。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） それでは、再質問をさせていただきたいと思います。

最初に、イベントの開催ということで質問させていただきまして、この質問書を提出した時点ではまだ決まっていなかったのですけれども、憧憬の路が今年は3年ぶりに開催決定ということで、市のホームページにも、それから観光協会等のいろんなところでPRがされているということで。それで、主には町並み地区の皆さんに御協力いただく必要があると思います。その辺も込めて、どういうふうに対策をされるのか。さっき申し上げたとうかさんですかね、とうかさんが行われて、新聞記事によりますと、とうかさん、人出が34倍ですかね。コロナ禍以前と比べると、人出は半数だったが歩行者天国がなく露店の数を少なくしたため、かえって人が集中したとか、こういった事例もあるようなので、いろんな事例を参考にしながら、コロナ対策、住民の安全対策という必要が、大変な準備がかかると思うのです、恐らく県へ資料を出して許可を取ったりとか、かなりの手間がかかると思うのですけれども、現在のところ、今後どのような対策を考えられているかお聞かせください。

議長（大川弘雄君） 観光まちづくり担当部長。

観光まちづくり担当部長（國川昭治君） 市内のイベント等につきましては、先ほど議員のほうからも紹介いただきましたが、春の竹まつりが、コロナ禍の感染拡大の影響によりまして中止ということになっておりますが、県内ではとうかさん、また三原のやっさ祭りもやるという情報も入っておりますけれども、市内のイベントにつきましても、現在、いろいろ各団体によりまして検討をされているところでございます。

市が事務局を持っております憧憬の路につきましては、先ほど紹介いただきましたとおり、今年度は、令和2年、令和3年は中止をしておりますが、3年ぶりに開催ということで決定をさせていただいたところでございます。開催につきましては、10月29日、30日、この両日開催というところでございますけれども、感染拡大が完全に終息したということではございませんので、広島県が示すイベントの開催条件に応じまして、感染防止、安全計画、こういったものを策定しながら開催に向けて取り組んでまいりたいと思っております。

なお、イベントの内容でございますが、先ほど議員のほうからもございましたとおり、地域の方の御協力が大変ある中で開催できてきたイベントでございます。今回はこういう感染拡大、コロナ禍におけるイベントということでございますので、やはり感染防止の観点を重要に思っておりますので、これまでの憧憬の路のやり方に加えて、新たに若い方にもどのようにお手伝いいただくかという部分についても検討しながら、新たな憧憬の路の実施方法等については検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） 今、開催の方法等のことが出ましたけど、それはもうちょっと後、聞かせていただくようなところがあるのですが、今部長がお答えになられたように、町並みの方が、私はコロナが出てからよく歩くのですけれども、やはり高齢の方も多いということで、非常にコロナの心配はされております。その中で、今回こういった決定をして、とにかくやっ払いこうということだと思います。一定のスペースを区切ることができない状態で、はっきりとどれぐらいの方がお見えになるかも分からないような状態で開催することもありますので、かなり慎重に、なおかつ、地元の方には十分な説明をさせていただいて、御了解いただいて、事故とかそれから後の感染発生がないような対応を十分にやっていただきたいと思いますので、その点についてはよろしく願います。

それから、呉市の例を挙げたイベントに対する経費補助なのですけれども、今憧憬の路の話が出まして、今年はどうな形になるか、今から検討されるのだと思うのですけれども、従来、自治会単位で作品を展示されて、自治会単位で非常に苦慮されて展示をされているという、それまた逆に楽しみにされていたところもあるのですけれども、2年空いていますから、また新たに始めると。それから、今回はコロナの関係もあって、その対策も込めたいろんな経費とか、持ち出しとかという形も出てくる可能性があると思うのですね。市の今年度の予算では、地域活性化イベントに要する経費として388万円、そのうち憧憬の路事業補助金として288万8,000円と、これが計上されているわけですが、こういった自治会単位とか、そういうところで何かやれるということであれば、新たな形で何らかの助成、聞き取りをして応援をしていただくようなことをお願いしたいのですが、この点はどうでしょうか。

議長（大川弘雄君） 観光まちづくり担当部長。

観光まちづくり担当部長（國川昭治君） まず、コロナ禍におけるイベント開催につきま

しては、繰り返しにもなりますけども、憧憬の路については地域で多くの方が住まれているエリアでイベント実施ということにもなりますので、感染防止対策についてはしっかり取った上で、またどういう形でイベントが開催できるかということについては、開催決定は先日したところでございますが、開催内容については実行委員会のほうでしっかり検討し、感染防止対策を取った上で実施していくということで今後検討してまいりたいと思っております。

また、にぎわいづくりに向けたイベント等の実施に対する助成という部分でございますが、本市につきましては、コロナ禍で各事業者を含め影響を非常に受けているという中では、まず交流人口を増やすという観点ではP a y P a y等による消費喚起策、あるいはまた今回発行いたしますプレミアム商品券、そういった形で消費喚起策、あるいはにぎわいづくりに取り組んできたところでございます。そういう中で、各地域でイベントを開催いただくということにもなりますが、こちらについても、県内では呉市、そのほか何市かが助成もやっているところでございます。本市におきましても、これまで取り組んできた事業を踏まえながら、また本市の実情を踏まえた上で、こういった助成については検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） 私が見たのは、新聞で呉市の事業ということで、こういった事業もありますよということで今回お話をさせていただいております。

呉市のホームページで内容を見ると、少額でも、それから小さいところでもできるような設定になっているようで、できるだけこういった、小さいところも応援していただくような助成というか、そういうことを検討していただきたいと思いますので、よろしく願います。

次に、インバウンド関係なのですけれども、大体国の施策の流れが今後インバウンド、円安も進む中でそちらのほうへ政策として流れていくというところがあって、私も、従来、インバウンドも大事けれども、近隣の方に日帰りでもいいから来ていただいて、リピーターで観光消費を上げていただくのが一番安定するのではないかといろいろな場面で申し上げてきました。今回も、施策としてはインバウンドということが出てましたので、その点について私の考え方を改めて、インバウンドと国内近隣地域への観光のアピールということでお話をさせていただきました。インバウンドに関係すると、つい先日

インバウンドの語学研修ということの提案がありまして、市役所、観光協会、商工会議所ということで、来られた方には案内したのですけれども、市の担当のほうで検討していただくということでその場は終わったのですが、対応していただいて、恐らくやっていただけるのだと思うのですけれども、例えば、観光関係なので観光のガイド会さん、それから、もし許されるのであれば、高校生、中学生というところも巻き込んでやって開催していただくようなことができるかどうかをお願いします。

議長（大川弘雄君） 観光まちづくり担当部長。

観光まちづくり担当部長（國川昭治君） インバウンドの対応、取組でございますけれども、本市につきましては、まずインバウンドの受入れ環境の整備をということでございまして、キャッシュレス設備あるいは翻訳機、こういったものの導入に対する支援を行ってきているところでございます。また、今年度につきましては、町並み保存地区の公衆用トイレの改修ということで、和式から洋式化ということで受入れ環境の整備に努めてきたところでございますが、観光といいますと地域の観光人材の育成という部分も重要と考えております。

先ほど議員のほうで紹介いただいた内容については、観光庁のほうがこういう語学研修のスタッフを派遣するという、そのような仕組みであると認識しておりますが、こちらにつきましては観光協会、商工会議所とも先日意見交換をしたのですが、やはり開催したほうがいいのではないかと考えておりますので、開催に向けて、また観光庁のほうに対し申請等をしていきたいと考えているところでございます。

なお、こちらについては、どういった方に参加いただくかというのはあるかと思いますが、やはり観光でガイド会ということになりますと、観光の中心でもございますので、参加いただけるようでありましたら声をかけさせていただけたらと思っております。また、その他の飲食等も含めてぜひ参加したいという方もおられるかと思っておりますので、そういった方に声をかけながら幅広く取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） 先日、観光ガイドの方と道の駅で会いまして、この語学研修の話をたまたまさせていただいて、いい感触でできれば参加したいというような意向がありましたので、その点は申し上げておきますので、ぜひ。また高校生ぐらいになると、観光関係のことをやっている生徒もいますので、その点も可能であれば検討していただきたいと思

います。よろしく申し上げます。

それから、今の観光ガイドの話も出ましたけれども、今からいろんな事業を進めていくときに、市内の観光関連事業者などからも十分な聞き取りをしていただいて、観光行政を進めていただきたいと思います。その中に観光ガイドの受入れですけども、現在観光ガイドさん、受入れが、たしか恐らく県内の方のみで、県外の方はまだお断りをしているのですよね、やっぱりコロナの関係があって。今後ガイド会さんも、失礼ながら少し高齢の方がおられて、ガイドの養成、それからこの間ですが、今のこの時期に町並みをガイドして帰ってくると汗びっしょりで、マスクをしてマイクを持ってなのですよね、だから汗びっしょりで大変なのです。昨日の話では、今割と申込みが多くて、朝やって、午後やってと、1日で2回するような方も今後出てくるというような話を聞いておまして、本当に健康に気をつけていただきたいという思いがあるわけですけども、繰り返しますが、今後ガイドについて、もう少し市とガイド会と連携して、大きな枠でガイドの養成とか、今の方の勉強を広げていただくとか、そういった方向性でちょっと考えていただきたいと思うのですが、この点はどうでしょうか。

議長（大川弘雄君） 観光まちづくり担当部長。

観光まちづくり担当部長（國川昭治君） ガイド会についての質問でございます。

町並みガイド会につきましては、現在、議員の言われますような近隣県といいますか、近場の対応という形にはなっております。ガイド会については、現在は道の駅のほうで受付をしておまして、道の駅からガイド会のほうに連絡するという仕組みでございまして、本市も交えて、ガイド会の代表の方と道の駅、市ということで、定期的にといいますか、どういう対応するかという話合いをしております。そういう中で、現在は休止しているという状況ではありますけども、もう国のG o T o等も始まる予定ということでお聞きしておりますので、ガイド会についてもどのように対応していくかということについては、三者でまた協議してまいりたいと思っております。

また、ガイドの育成ということでございますが、町並み保存地区と合わせて大久野島のガイドについても要請がございます。市といたしましても、ガイドの育成ということについては、以前、観光協会のほうで募集し、ガイド育成に努めていたところでございますが、この間少しお休みしている部分もございますので、そういったニーズもあり、今後観光の高付加価値化ということで目指しているところでございますので、ガイドの育成についても関係者と協議をしながら検討してまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） 今、部長が言われたように、ガイドの育成というようなことは大事だと思います。

さっき申し上げましたけれども、やっぱり高齢の方がずっとボランティアという形で頑張ってきて、失礼ですが年齢が上がられて、結構しんどいですから、行って帰って約1時間半から2時間ぐらいずっと歩いてマイクを持って話をしているという。ましてや今マスクをしてというふうな形。若手の方が少し入られましたけれども、それから以降、次に加入される方もないというふうに聞いております。だから、もう思い切ったことをやっていかないと、ガイド会そのものが非常に厳しい状態になっていると外から見て思いますので、ぜひ相談をしていただいて、若い方を含めたガイドの育成、それから今言われたように町並みだけでなく、市全体のガイドとかという方向性もあるようですから、関係者と十分協力していただいて、次につながるような取組をしていただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

次に、教育旅行なのですが、一応竹原市も誘致できるのではないかとということで提案させていただきました。

その御答弁の中に、これまで広島県観光連盟と連携して、関東、関西方面などの高等学校や旅行会社などに対し、大久野島をはじめ、県内の平和を学ぶことができる施設への誘致に向けて営業活動を行ってきたという御答弁がありまして、たしか大分前は、大久野島は修学旅行の生徒がたくさん来て、あそこの支配人が海へ飛び込むパフォーマンスをして人気を盛り上げたというような時期もありましたけれども、最近ちょっとコロナなどもあるので、あんまりそういう話を聞かないのですけれども、現在の状況というのはどういうふうになっているか、お分かりになりますか。

議長（大川弘雄君） 観光まちづくり担当部長。

観光まちづくり担当部長（國川昭治君） 教育旅行の誘致につきましては、答弁のとおり、これまでは広島県観光連盟と連携をいたしまして、関東方面あるいは関西方面に営業活動に努めてきたところでございますが、近年コロナの影響によりまして、最近は実施できていないという状況ではございます。

実績ということでございますが、コロナ前の平成28年、29年、30年ぐらいまでということになりますと、80校を超える学校が大久野島でございますが来島いただい

たという形になっておりまして、主には関西の小学校が中心という状況でございました。今コロナの影響を受けておりまして、令和3年の実績ということでございますと、42校ということで減少しているところでございます。

しかしながら、コロナのほうも大分影響も落ち着いてきておりますので、また観光客の誘致を促進するために、旅行会社等への営業活動は来月からスタートする予定としておりまして、関東あるいは関西のほうにも、旅行代理店等のほうに営業活動するように、現在準備をしているところでございます。

以上でございます。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） 今言われた令和3年でも42校は来ていただいているということで、前のほうからいくと半数近くになっているということだとは思いますが、まだこういう形で来ていただける学校があると。先ほど竹細工の話をしましたけれども、三次のほうから少人数の学校の生徒さんが来られて、竹細工の方が道の駅の中で指導するというのがたしか2回あったと思うのです。だから、ああいう形で近隣の誘致も私はできると思う。竹原市内の小中学校の修学旅行も、コロナ発生後は割と近隣、山口県とか遠くても四国ということで、近場になっている。それと、教育旅行そのものが、いわゆる修学旅行という言葉になるかもしれませんが、レジャー性よりも教育的価値を求めるという流れがありますので、その点でいえば、竹原はそういったことを提供できることは十分にあるというふうに思います。営業活動を再開していただけるということなので、ぜひあらゆるところへ向けて営業活動していただいて、成果を上げていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

次に、道の駅の駐車場なのですが、御答弁では、設置者である国土交通省と協議してということで御答弁いただいております。あそこは本当に危ないのです。185をこう行って、右へ曲がったら車が止まっている場合もあって、結局、あそこから信号右へ曲がって、左に駐車場に入っていっぱいというふうなこと。そうすると入れない車が列をなすということが多いたときには結構ある。それで危ないと従来思っているわけですが、できれば駐車スペースを配慮していただいて駐車台数を増やしていただいてという、そういう思いで質問をしたのですが、設置者である国土交通省と協議という御答弁です。ただ危険であることは現状でも間違いのないと思うので、何らかの対策を立てていただきたいと思いますと思うのですが、この点はどうでしょうか。

議長（大川弘雄君） 観光まちづくり担当部長。

観光まちづくり担当部長（國川昭治君） 道の駅の駐車場についての御質問でございますが、確かに道の駅は交差点に面しておりまして、曲がってすぐ進入路があるという状況でございます。土日、祝日等の混雑のときには渋滞が発生しているという状況ではございます。真ん中の進入路につきましては、市道向島北線ということで市道認定もしておりますが、奥の市道向島北崎線ということで国道より1つ山側の市道への接道ということでもございますので、道路としてはそういうことで現在生活道として利用いただいているという面もございます。そのような中で、やはり事故が起こらないようにというのが重要だと思っております。道の駅の駐車場につきましては、道路施設としての駐車場ということで、国土交通省の管理している部分と地域振興スペースということで市の管理部分ということがございますけども、駐車の実態といたしますと、観光客の方が長い時間止められたりというケースもございまして、渋滞が起こっているというふうには考えております。

ということで、駐車場については国土交通省の所有部分が大半ということもございますので、国土交通省と協議しながら、適切な利用に努めていきたいと考えております。現在は、ピーク時には警備員等を配置し対応しながら、市の職員駐車場あるいは新町観光駐車場のほうへ誘導しているところでございますので、引き続きこのような対応をしながら、国土交通省とも適切な利用については協議しながら、事故のないよう取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） 今、部長の御答弁にあったように、ふだん市の職員さんが駐車されている駐車場があって、あそこは意外と森川邸も近いし、当然無料ですし、比較的便利で私はいいと思うのですよね。ただ、あそこに行くのに道の駅がいっぱいだからあっちに回ってくださいよということになってくると、一旦道の駅まで行って、あそこへ回るということになってくる。だからもし、これは難しいと思うのですが、可能であれば道の駅は満車ですと、その手前で左へ曲がってもらって市営の駐車場のほうへ回っていただくというふうな何かの手だてを考えていただければ、もう少し混雑も危険性も下がると思います。よく知っている人も、最初からあそこへ置く人も、時々行きますけど、もう怒っているのです。割と休みなんかは結構車が入っていますから、リピーターの方なんかはそちらへ、いっぱいということであれば回っているのだと思うのですけれども、ただ告知の仕方

とか、難しいことがあると思うのですが、それは検討していただいて、お願いしたいと思います。駐車場については、市外から例えば来られた方が、まあ正直、あそこは形が悪いからもう少し何とかなりませんかねとかというふうなことを言われたりすることがあるので、駐車場の駐車スペースを増やすのですね。何とかできることがあれば、それは交渉していただいて検討していただきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

次に、関係人口の増加対策ということで、質問をさせていただきたいと思います。

おてつたびの話をさせていただいたのですけれども、忠海に、リングロー忠海集学校ということで東小学校へ来られている会社があります。先般、校舎の中の修繕というか、タイルの貼り替えということをやられたのですけれども、そのときには、東京の若い社員が6～7人ですかね、来て一緒になってやっていると。これを見たときに、何かこの人たちにも、いろんなことを協力をしていただけるとはいいかなというふうなことを思いました。やっぱり若い人は動きも早いし、にぎやかです、そういう人たちが来ると。もう一個、町並みにサテライトオフィスが進出されましたけれども、この責任者の方は町並みへ住宅を借りてお住まいになるというふうなことで、こういった事業が新しい交流、それから移住ではないのですけれども、関係人口から本当に人口の増加ということにつながっているということで喜んでおります。だから、もっと広げて、もっと交流ができて、いろんな方が協力していただけるという状態になればいいなと。こういった御縁を大事にさせていただきたいという思いを持っております。

それで、おてつたびですけれども、今回はブドウの栽培ということで3人の方が来られて、地域も違うし、年も違うし、お話をしましたけれども、いいところですねということで帰られましたが、また来てくださいということですのでけれども、今回農作業のおてつたび、これをまた続けて取り組んでまいりますというふうな御答弁だと思うのですけれども、今後農作業だけでなく、市内で人手が足りないというのは明確です。何かしようと思っても人がいないというパターンが多いので、農作業に限らず、今のおてつたびに限らず、例えば市の祭りに協力をさせていただくとか、何かの行事に協力させていただくとかというふうな取組も、トータルに考えてやっていただけることはないかと思うのですが、この点はどうでしょうか。

議長（大川弘雄君） 総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） おてつたびのお話でございまして、このおてつたびというのは、お手伝いと旅を合わせた造語ということで、このおてつたびという名称で、旅行サ

ービス業を営んでいらっしゃる会社がございまして、今回そちらの関係で利用がございました。このおてつたびにつきましては、人手を必要とする事業者と地域で働きたい参加者をつなぐ、仕事と働き手のマッチングサービスでございます。農業だけではなく、幅広い業種の仕事が登録されている状況でございます。議員からございましたように、例えば、農業以外では、繁忙期の宿泊施設での清掃、レジャー施設やスポーツイベントの運営といった仕事が登録されております。これは地域も、働く期間も様々であるという状況でございます。

ただし、おてつたびやこのサービスの利用に当たりましては、事業者は参加者へ報酬を支払う、こういったほか、運営会社へはマッチングに係る手数料を支払うことになっていると、こういったものでございます。また、住み込みで働くことになるため、宿泊の場所を確保する必要もあるということでございます。こういったお金の面の負担が可能でありましたら、市内の地域でのお祭りの運営の関係とか、他の仕事とのマッチングも可能と考えております。本市におきましては、たけはらファンクラブの会員を対象に、そういった地域のお祭りとか、そのほかの行事関係の準備、運営に携わっていただけるボランティアの募集もできないかということで、現在考えているところでございます。

コロナの影響で、先ほど観光まちづくり担当部長も申し上げましたが、イベントが中止となっている状況ということで、なかなか実施に至っていないという状況もございますので、そういったイベントの関係につきましても、何かできることがありましたら、そのように取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） ぜひ、部長さんが御答弁いただいたように検討していただいて、前向きにやっていただきたいと思います。

ブドウ栽培のところへ行きましたけれども、やっぱり今部長が御答弁になられたように、結構費用がかかると。それから、住むところも準備と。たまたま安く住むところというか、入れるところがあって、男性2人女性1人ですから、どのようにされていたのかと言うと、1つの中古住宅の中へ入って1週間ぐらい使っておられたのですけれども、鍵をかけて、何とかそこへ3人で入っていますというふうなことで、苦勞されながらやっておられると。負担もあるということもあったのでしようけれども、今後どういった形か分かりませんが、何らかの形でこういったことも広げて、交流人口、それからどん

どん協力していただける方を増やしていくということが、ずっとそういうお考えだと思うのですけれども大切だと思いますので、今後もよろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、京都伝統工芸大学校ということで質問をさせていただきました。

来た青年は、今も三越ですかね、広島百貨店、三越のほうへ何回か通って、そこでいろんな展示をしたり、それから実演をしたりというふうなことをやっております。この後は、もう一件、たしかそごうだったですかね、また百貨店のほうでそういったことをするような話も聞いております。彼の場合は活躍して5年たって、いろんなところでメディアにも出るし活躍をしているということなのですが、彼について言いますと、彼が中学校、横浜出身ですけれども、横浜の中学校のときに、現在の広島県の教育長の平川教育長がたまたま校長先生だったというようなことも聞いております。何らかの形で教育長さんから応援をしていただくような機会があればいいなというふうに思っております。

それから竹細工については、卒業作品で竹原小学校の場合は陶芸をやるのですけれども、卒業制作をずっとやるのですけれども、竹細工について聞きますと、竹を切って油抜きをして、干して、ひごを取ってと、物すごい時間がかかるのですね。だから、ある意味それを1年間かけて子供たちに伝承するようなクラブ活動、もしくは卒業作品の制作というようなことも今後の若い世代を育てる上で必要ではないかと、これ全部工程が分かりますから。今の竹細工の作品だけぱっと見ると、感覚的に見るから高いなという人が時々いるのですけれども、その工程を知ると、これだけの値段とか、これだけの価格になるというのは十分に分かるのですね。だから、そういったものも子供たちに分かるような仕組みをまたどこかで考えていただいて、応援してやっていただきたらとは思っております。

それで、彼の場合ですけれども、申し上げたように、広島百貨店へ行って新しい関係ができて、竹だけではなくってほかの工芸のグループの人と交わる、いわゆるアーティストという言い方が正しいかどうか分かりませんが、交わる。そういう人たちと話す機会ができたこと、非常に今喜んでおります。私は、そうしたらその人たちに竹原へ来てもらいなさいと。ぜひ来てもらって、竹原を見てもらって、そういう芸術系の人ですから、もっと竹原を気に入ってもらえるかも分からないと話をしたのですけれども、そうですね、竹原へ来たいという人もいますと言ってましたので、ぜひ来てもらって案内をして、こういった竹原のファンになっていただきたいというふうな思ひを今持っております。

それで、学校との関係なのですけれども、御答弁では、竹工芸振興協会や関係者と協議

しながら今後具体的な取組について検討という御答弁があるのですけれども、この御答弁の中に、学校との関係、連携ということに対して、若干ないのではないかなというところがあるのですが、京都伝統工芸大学校というのは、ここの御答弁中にある関係者の一つというふうに考えていいのかどうか、お願いします。

議長（大川弘雄君） 観光まちづくり担当部長。

観光まちづくり担当部長（國川昭治君） 竹工芸の振興あるいは観光、関係人口の増という関連の質問だと思いますが、議員のほうからも御紹介いただいたとおり、移住された青年をはじめ、京都伝統工芸大学校の卒業生が竹工芸振興協会さんのほうに所属されまして様々な活動をされており、また移住者も、4名ですか、今現在おられるという中で、市の特産品である竹細工の魅力発信や市の認知度向上という部分については貢献いただいているものと考えております。

市といたしましては、竹工芸の振興という部分につきましては、現在、まず、竹工芸のPR、あるいは竹工芸品の販売促進、さっき今田議員の観光イベントでありましたように、竹トンボのオブジェを飾ったりとか、そういった形で竹工芸品のPR、販売促進に努めさせていただいているところがございますが、竹工芸の技術の伝承という部分も重要であるかと考えております。そのような中で、先ほどの京都伝統工芸大学の学生さんをはじめ、こういった若い方が竹原に移住され、文化の伝承あるいは関係人口の増ということで貢献いただくということは、非常に重要であるというふうに考えております。そういう中で、今後、関係者ということではございますが、京都伝統工芸大学をはじめ、近隣には様々な大学、県内にいろいろあります、とにかく若い方に竹原市に関わっていただくような取組ということで、関係者と取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

議長（大川弘雄君） 3番今田佳男議員。

3番（今田佳男君） ぜひいろんな形でやって、関係を持っていただきたいと思います。さっき申し上げたように、彼がああいうふうに活動することによって、また新しい連携ができる可能性が今芽生えてきているというところで、これは一つのチャンスだと思うので、私は何とかこれを生かしてやっていきたい。今の伝統工芸大学校は、当然たくさん伝統工芸があって、竹細工だけでなく金具もある、それから漆もある、それから木工もあるという、非常にいろんな工芸があるんです。できれば何人か来てもらって、それこそ彼の場合は憧憬の路のときに手伝いに来て、学校にあるインターンの制度があるのです

けれども、1週間のインターンの制度を利用して憧憬の路へ来て手伝いをして、もっと竹原が好きになって移住しますというふうに流れていったのですけれども、来月私は学校へ行こうと思いますので、ぜひこういう形で竹原市と連携をしていただきたいというふうなことを申し上げたい。彼、彼女らが移住するときに学校へ行って、学生課の課長さんと、それから進路指導の担当の方ともよく話をし、今ずっと関係を築いてきていたのですが、2年ほど空きましたので、今後どういうふうな対応をしていただけるか分かりませんが、そういった形で取り組めば、いろんな連携ができて、町並みのほうへ、もしかすると竹工芸だけではなくていろんな工芸の方がお住まいになって、もっと町並みがにぎやかになるというか、育っていくのではないかという希望を私は持っているのです。今申し上げたように、来月、学校へ行きますので、そういったことをやりたいと思います。

最後に、市長に今申し上げた学校との連携とか竹細工の発展とか、そういった点について、市長の御所見があれば伺いたいと思います。

議長（大川弘雄君） 市長。

市長（今榮敏彦君） 今田議員の御説明、または今までの流れの中での御考え等をお聞きしまして、当然私も、議員が当該大学校さんとまたは本市に志を持って移住をしてきてくれた学生との関係でありますとか、経緯というのは承知しております。その中で、竹工芸の振興協会、または町並みの竹工房があるがゆえに彼らはその魅力を感じ、この地にぜひというふうな思いを持ってくれたというふうにも、私たちもそのように考えているところではあります。

何でもかんでもということにはならないと思いますけれども、竹原市の持つポテンシャルをそれぞれの若い学生さん、または移住を希望されている、または関係を求めていきたいと思われる方々にどう受け止めていただけるか。または竹原市としては、それをキャッチしていただくべく、いかに発信をしていくかということがマッチングにつながっていくのではないかなというふうにも考えているところです。様々な手法または取組によって、今も関係人口または移住・定住政策を進めているところでありますけれども、それぞれが非常に重要な取組というふうにも思っておりますので、議員が御関係のあります大学校さんにも、やはり人的交流から物事が始まるということでもありますので、その点については取り組んでいただければというふうにも思っております。

また、各機関との連携協定につながるような連携というように、例えば申し上げますと、やはり意義、目的ないし双方の合意というものが当然必要となりますので、単なる連

携というふうに捉えることなく、何ができるのかということのをこれからしっかり整理をしなければいけないという意味で、私もまた部長も御答弁をさせていただいているというふうに認識してございます。いずれにしても、非常に貴重な人材でもありますし、せっかく出身であります大学校さんとのこれからの交流というものも必要であるというふうにも認識しておりますので、ぜひまた情報交換をさせていただきながら取り組むことができればというふうにも思っております。その上で、本市の誇れる竹文化または竹工芸振興協会との連携をしっかりと築いていきたいというふうに思います。

議長（大川弘雄君） 以上をもって3番今田佳男議員の一般質問を終結いたします。

これをもって一般質問を終結いたします。

日程第2

議長（大川弘雄君） 続きます。日程第2、議案第36号令和4年度竹原市一般会計補正予算（第3号）を議題といたします。

提案者の説明を求めます。

総務企画部長。

総務企画部長（平田康宏君） ただいま議題となりました議案につきまして御説明申し上げます。

議案説明書の7ページを御覧ください。

議案第36号令和4年度竹原市一般会計補正予算（第3号）について、その概要を御説明申し上げます。

初めに、歳出について御説明いたします。

総務費においては、地域公共交通に要する経費として地域公共交通燃料費高騰支援補助金1,313万7,000円を追加計上しております。

民生費においては、非課税世帯臨時特別給付金給付に要する経費として非課税世帯臨時特別給付金など6,698万8,000円、新生児応援給付金給付に要する経費として新生児応援給付金など1,184万9,000円、認定こども園等に要する経費として食材料費負担軽減補助金79万2,000円、合わせて7,962万9,000円を追加計上しております。

商工費においては、商工業振興対策に要する経費として中小企業者等緊急一時支援金4,500万円、プレミアム付商品券事業に要する経費としてプレミアム付商品券事業補

助金1,761万1,000円,合わせて6,261万1,000円を追加計上しております。

教育費においては,学校給食運営に要する経費として学校給食費負担軽減補助金127万6,000円を追加計上しております。

これに対し,歳入であります,歳出に係る特定財源として国庫支出金1億5,665万3,000円を追加計上しております。

以上により,歳入歳出それぞれ1億5,665万3,000円を追加し,予算総額は歳入歳出それぞれ136億6,566万6,000円とするものであります。どうぞよろしくお願いいたします。

議長(大川弘雄君) 説明が終わりました。

ただいま議題となっております議案第36号につきまして,これより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

議長(大川弘雄君) これをもって質疑を終結いたします。

ただいま議題となっております日程第2,議案第36号令和4年度竹原市一般会計補正予算(第3号)を総務文教常任委員会に付託いたします。

以上で本日の日程は終了いたしました。

今後のスケジュールですが,会期日程表のとおり6月24日午前9時から議会運営委員会,午前10時から本会議を再開することとし,本日はこれにて散会いたします。

午前11時05分 散会